

ときめき人

Tokimeki bito



100年の伝統 受け継ぎ 令和の大嘗祭で 天皇陛下に供納

中田町・大泉

猪股 剛さん

いのまた つよし
1973年生まれ 血液型/O型

Profile

登米高卒業後、高知県で調理を学び、市内の飲食店などに勤務。その後、40歳の時に就農し、2014年と17年に農林水産大臣賞を受賞するなど、手間と時間をかけ、品質の高いリンゴを生産している。



「一世に一度しか開かれ^{だいじょうさい}ない大嘗祭で、天皇陛下に供納できるとは想像もしていなかった。とても名誉なことなので、光栄に思う」と驚きの表情を見せる猪股さん。

皇位継承に伴う皇室の伝統行事「大嘗祭」は11月14、15の両日、皇居東御苑に作られた大嘗宮で開かれ、猪股さんが生産したリンゴが供納された。猪股さんの農園がある上沼地区は、リンゴの産地として有名。30年前の平成の大嘗祭でも、同地区の小野寺果樹園から供納された。

猪股さんがリンゴの栽培を始めたのは、叔父である後藤隆太郎さんが営む後藤りんご園の後継者がいなかったのがきっかけ。「子どもの頃から慣れ親しんだ農園がなくなるのは寂しい」と、それま

で勤めていた会社を辞めて就農した。品種の持つ特徴を生かすことを心掛け、隆太郎さんの指導を受けながら二人三脚で栽培。これまで2度、農林水産大臣賞を受賞するなど、質の高いリンゴの栽培技術が評価され、供納者に選ばれた。「登米市は良質なリンゴが多い。今回のことで産地の認知度が上がってほしい」と地域の活性化を願う。

「この農園は曾祖父の代から、約100年の歴史がある。自然災害で大きな被害を受けることもあるが、ここのリンゴを待っている人がいてくれるから頑張れる。先代が築き上げてきた味を引き継ぎ、これからもおいしいリンゴを作り続けたい」。100年の伝統を受け継ぎ、さらにその先へ。猪股さんは今日もリンゴと向き合っている。

編集後記

▼11月に広報の研修へ参加。他市町村からの参加者も多く、同じ広報担当者の目線から広報紙の内容や掲載方法についてさまざまな意見を聞くことができました。研修で学んだことを今後に生かし、よりよい「広報とめ」を目指していきたいと思えます。(三浦)

▼2019年の流行語大賞に選ばれたのは、ラグビー日本代表のチームスローガンである「ON THE TEAM」。日本代表の姿を見て、チームが一つになるためには、そこにいくまでの過程が大切だと感じました。20年は40歳になる節目の年。チーム力を意識して仕事に励みます。(高橋)

▼最近話題になった「人生会議」。自分の望む医療などを信頼する人と話し合うことが、もしものときの思いを伝える手段となり、大切な人の心の負担を軽くするものになります。人生会議は「死」ではなく「生」を考えるもの。お正月など家族が集まる一年の節目にぜひ人生会議を。(小野寺)



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<https://mail.cous.jp/tomecity/>

